



# 感染症週報

令和7年12月1日発行



## 小笠原での流行状況

第48週（11月24日から11月30日まで）

父島 不明発しん症の報告がありました。

母島 インフルエンザの報告がありました。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

## 東京都全体での流行状況

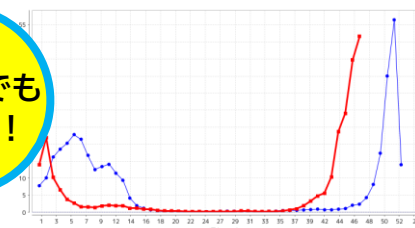
第47週（11月17日～11月23日）

### 【警報・注意報】

・インフルエンザ **警報レベル**  
（定点患者報告数 51.69）

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移

小笠原でも  
要注意！



(C)2002-2025 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

都内の保健所別定点当たり患者報告数(第47週)



0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 80.0 90.0 100.0 人/定点

### 【ピックアップ】

- ・百日咳 まだまだ注意が必要です  
（累計患者数 6,863人）
- ・感染性胃腸炎  
（定点患者報告数 5.59 ↑）

## 感染症メモ

インフルエンザの“本家”は人ではなく水鳥（カモ類）で、世界中へウイルスを運ぶ自然宿主です。人の流行の裏側には、渡り鳥の大移動というグローバルな背景があります。また、インフルエンザは多くの動物にも感染します。ブタは鳥と人の両方のウイルスが感染するため“混ぜ合わせの器”になり、新型インフルエンザの誕生源として知られています。ほかにも、ウマ・アザラシ・クジラ・パンダなど意外な動物に感染例があり、特にフェレットは人と似た症状を示すため研究の主要モデルとなっています。毎年少しずつ姿を変えるインフルエンザですが、その背景には、人・鳥・哺乳類をまたぐ大きな生態系ネットワークがあり、私たちの流行もその一部として成り立っています。



習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い



東京都島しょ保健所小笠原出張所

## インフルエンザ 今年の特徴

2025-26  
シーズン



流行が例年より**早い**



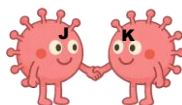
流行がより広がりやすく、  
長引く可能性があります

**変異株**が主流



ワクチン株とのずれで  
より感染しやすい可能性※

2023～  
J系統



2025～  
K系統

※ ワクチン接種は  
重症化を防ぐ効果が  
あるから決して無駄  
ではないよ！



A(H3N2)サブクレードKは2023年に初めてイギリスで検出された変異株です。昨年の南半球での流行から増加し、今シーズンでは主流株となっています。従来株に比べて増殖が速い、抗体による中和が低下する傾向等がありますが、ワクチン効果の実際の低下度合いや重症度はまだ不明です。

参考・出典 欧州疾病予防管理センター

## 感染拡大への備えが大切です

- **手洗い**と**換気**をこまめに行いましょう。
- **咳エチケット**を守りましょう。
- 人が集まる場所では**マスクを着用**しましょう。
- **食事・睡眠**をしっかりととりましょう。
- 食料・経口補水液・常備薬を確保しておきましょう。